

姫路市  
介護ロボット等・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査報告書

I	介護ロボット等・ICT導入に関する背景と状況	1
II	介護ロボット等・ICT導入に関する調査の概要	6
III	介護ロボット等・ICT導入に関する課題の整理	8
IV	介護ロボット等・ICT導入に向けた事業提案	14
V	巻末参考資料	15

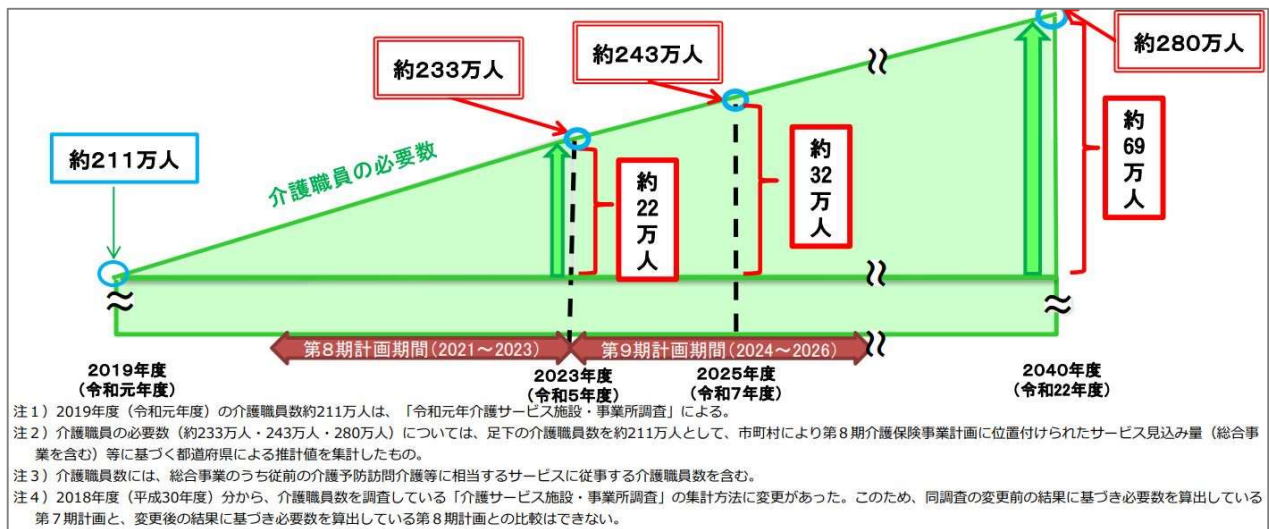
令和4年3月31日

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター



## I 介護ロボット等・ICT導入に関する背景と状況

わが国の介護人材不足の背景は、少子高齢化に伴う「人口減少社会」や戦後の第一次ベビーブーム（1947年～1949年）に生まれた、いわゆる団塊の世代が75歳を迎える「2025年問題」など、深刻な状況となっている。こうした背景を受け、厚生労働省は令和3年7月9日に第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護人材の必要数を公表している。これによれば、2025年度末に必要な介護人材数は約243万人、2040年度には約280万人と見込まれている。2019年度の約211万人に加え約69万人の介護人材が必要と見込まれ、年間3万人程度の介護人材を確保する必要があると推計している。（図I-1）



(図I-1)「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について(令和3年7月9日)」別紙1 資料抜粋

国においては①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など、総合的な介護人材確保対策に取り組むと述べている。また、総合的な介護人材確保対策(主な取組)として、これまでの主な対策と今後、さらに講じる主な対策(図I-2)を示している。介護福祉士を目指す学生への修学資金貸付制度や介護現場における防災リーダーの養成、ウィズコロナに対応したオンライン研修の導入支援、副業・兼業等の多様な働き方モデル事業の実施、一旦仕事を離れた介護人材への再就職準備金貸付制度の導入や「介護福祉士」国家資格の取得を目指す外国人留学生への支援などに対し、在留資格「介護」を新たに創設するなど、介護人材確保に向けた様々な取り組みや支援が推進されている。なかでも、介護ロボット・ICT等テクノロジーの活用推進がすすめられており、令和3年度介護報酬改定における自立支援・重度化防止の取組の推進においては、介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進・寝たきり防止等、重度化防止の取組の推進などが掲げられ、ますます、介護ロボット・ICT等のテクノロジーの活用が進められているところである。

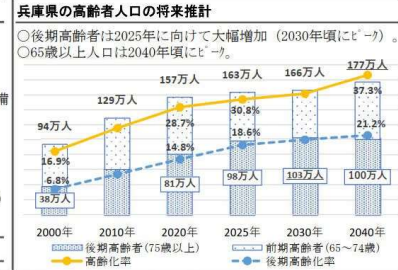
総合的な介護人材確保対策（主な取組）		別紙3
介護職員の処遇改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リーダー級の介護職員について他産業と遜色ない賃金水準を目指し、総額2000億円(年)を活用し、経験・技能のある介護職員に重点化した更なる処遇改善を2019年10月より実施</li> <li>※ 令和3年度介護報酬改定では、介護職員の人材確保・処遇改善等にも配慮し、改定率を+0.70%とするともに、更なる処遇改善について、介護職員間の配分ルールを柔軟化を実施。</li> </ul>	<p>(実績)月額平均7.5万円の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月額平均1.8万円の改善(令和元年度～)</li> <li>月額平均1.4万円の改善(29年度～)</li> <li>月額平均1.3万円の改善(27年度～)</li> <li>月額平均0.6万円の改善(24年度～)</li> <li>月額平均2.4万円の改善(21年度～)</li> </ul>
多様な人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護福祉士修学資金貸付、再就職準備金貸付による支援</li> <li>○ 中高年齢者等の介護未経験者に対する入門的研修の実施から、研修受講後の体験支援、マッチングまでを一体的に支援</li> <li>○ ボランティアポイントを活用した介護分野での就労活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>他業種からの参入促進のため、キャリアコンサルティングや、求職者向け職業訓練の訓練枠の拡充、訓練への職場見学・職場体験の組み込み、訓練委託費等の上乗せ、訓練修了者への返済免除付きの就職支援金の貸付を実施</b></li> <li>○ <b>福祉系高校に通う学生に対する新たな返済免除付きの修学資金の貸付を実施</b></li> <li>○ <b>介護施設等における防災リーダーの養成</b></li> </ul>
離職防止 定着促進 生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護ロボット・ICT等テクノロジーの活用推進</li> <li>○ 介護施設・事業所内の保育施設の設置・運営の支援</li> <li>○ キャリアアップのための研修受講負担軽減や代替職員の確保支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生産性向上ガイドラインの普及</li> <li>○ 悩み相談窓口の設置、若手職員の交流推進</li> <li>○ ウイズコロナに対応したオンライン研修の導入支援、<b>副業・兼業等の多様な働き方モデル事業の実施</b></li> </ul>
介護職の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学生やその保護者、進路指導担当者等への介護の仕事の理解促進</li> <li>○ 介護を知るための体験型イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者層、子育てを終えた層、アクティブシニア層に対する介護の魅力等の情報発信</li> <li>○ <b>介護サービスの質の向上とその周知のため、ケアコンテンツの取組を情報発信</b></li> </ul>
外国人材の受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護福祉士を目指す留学生等の支援(介護福祉士修学資金の貸付推進、日常生活面での相談支援等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「特定技能」等外国人介護人材の受入環境整備(現地説明会等による日本の介護のPR、介護技能向上のための集合研修、介護の日本語学習支援、介護業務等の相談支援・巡回訪問の実施等)</li> <li>○ <b>送出国への情報発信の拡充等</b></li> </ul>

※下線部分は令和3年度予算における新規事業

(図 I-2)「総合的な介護人材確保対策（主な取組）(令和3年7月9日)」別紙3 資料抜粋

兵庫県内においても、2021年度から2023年度を計画期間とする第8期介護保険事業支援計画の中で(図 I-3)、「地域包括ケアシステムの更なる深化・推進」、「介護人材の確保及び資質の向上並びに介護現場の生産性の向上」、「介護保険制度運営の適正化」、「高齢者が持てる力を発揮し生活を継続できる支援(災害・感染症対策の推進等)」とする4つの柱による推進方策を掲げており、介護ロボットやICTの活用は、コロナ禍におけるリモートワークや認知症高齢者への介護、災害対策におけるBCP計画の策定においても重要視されている。特に、令和3年度の介護報酬の改定に伴い、科学的に効果が裏付けられた自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス提供の推進を目的とした「科学的介護情報システム(LIFE)」による科学的介護推進体制加算が創設され、これからの介護人材不足や業務の効率化を図る上で、介護ロボットやICTの活用は非常に重要なポイントである。

なかでも、「介護人材の確保及び資質の向上並びに介護現場の生産性の向上」について、兵庫県は、介護ロボットやICTの導入について目標値を定めている。その内容によれば、令和5年度末までに「介護ロボット等導入モデル施設」の育成数を50施設、令和7年度末までに「ICTの導入事業所等数」を全事業所等の25%以上まで進めること、令和7年度末までに「介護ロボットの導入施設」を全施設の25%以上まで進めることを目標値として掲げている。その他、・ノーリフティングケアの考え方や方法論の普及を含め、介護ロボットを活用できる介護人材の育成の支援・専門性のある業務は専門職が実施し、それ以外の業務は専門職以外が対応する等、事業所等の業務の切り分けによる生産性向上の取組の支援・必要書類の提出や調査への回答等、事業所等が行う介護分野の行政手続きに係るデジタル化などの支援を施策の方向性として位置づけている。

兵庫県老人福祉計画（第8期介護保険事業支援計画）策定の概要																																																			
<b>I 概要</b>																																																			
<b>地域包括ケアシステムの更なる深化・推進に向けた取組</b> <b>主な課題（介護保険法等改正、第8期国の基本指針の策定）</b> ①2025・2040年を見据えた介護サービス基盤の整備 ②世代・分野を超えてつながる地域共生社会の実現 ③多様な介護予防・生活支援サービスの確保に向けた体制整備 ④高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 ⑤多職種連携および地域の支え合い活動との協働 ⑥認知症施策推進大綱を踏まえた認知症施策の推進 ⑦高齢者が安心して自分らしく暮らせる居住環境の実現 ⑧介護人材確保、介護現場の生産性向上（業務効率化・質の向上） ⑨災害・感染症対策の推進 <b>計画期間</b> 2021年度～2023年度の3年間		<b>兵庫県の高齢者人口の将来推計</b> ○後期高齢者は2025年に向けて大幅増加（2030年頃ピーク） ○65歳以上人口は2040年頃ピーク 																																																	
<b>第1号被保険者介護保険料（月額）</b> ◆第8期：6,001円（+1.8% 対第7期比） <table border="1"> <tr><td>第1期</td><td>2,903円</td><td>第2期</td><td>3,310円</td><td>第3期</td><td>4,306円</td><td>第4期</td><td>4,312円</td></tr> <tr><td>第5期</td><td>4,982円</td><td>第6期</td><td>5,440円</td><td>第7期</td><td>5,895円</td><td>第8期</td><td>6,001円</td></tr> </table> ※県内各市町の保険料月額を加重平均 ◆2025年保険料見込み：約6,900円		第1期	2,903円	第2期	3,310円	第3期	4,306円	第4期	4,312円	第5期	4,982円	第6期	5,440円	第7期	5,895円	第8期	6,001円	<b>兵庫県の要介護認定者数の推移（万人）</b> ○要介護認定者数は2025年で23.6万人（要介護1-5） <table border="1"> <tr><th></th><th>2020年</th><th>2025年</th><th>2040年</th></tr> <tr><td>要介護1～5（万人）</td><td>20.4</td><td>23.6</td><td>28.5</td></tr> <tr><td>認定率</td><td>12.7%</td><td>14.5%</td><td>16.3%</td></tr> <tr><td>要介護3以上（万人）</td><td>9.8</td><td>11.4</td><td>14.2</td></tr> <tr><td>認定率</td><td>6.1%</td><td>7.0%</td><td>8.1%</td></tr> </table>			2020年	2025年	2040年	要介護1～5（万人）	20.4	23.6	28.5	認定率	12.7%	14.5%	16.3%	要介護3以上（万人）	9.8	11.4	14.2	認定率	6.1%	7.0%	8.1%												
第1期	2,903円	第2期	3,310円	第3期	4,306円	第4期	4,312円																																												
第5期	4,982円	第6期	5,440円	第7期	5,895円	第8期	6,001円																																												
	2020年	2025年	2040年																																																
要介護1～5（万人）	20.4	23.6	28.5																																																
認定率	12.7%	14.5%	16.3%																																																
要介護3以上（万人）	9.8	11.4	14.2																																																
認定率	6.1%	7.0%	8.1%																																																
<b>兵庫県の認知症高齢者数の推計</b> ○認知症高齢者数は2040年で約38万～45万人 <table border="1"> <tr><th></th><th>2020年</th><th>2040年</th></tr> <tr><td>認知症高齢者数</td><td>約27～29万人</td><td>約38～45万人</td></tr> </table>			2020年	2040年	認知症高齢者数	約27～29万人	約38～45万人	<b>兵庫県の生産年齢人口/介護職員需要の将来推計</b> ○2040年にかけて生産年齢人口は減少（壮年層減少） →2020年の生産年齢人口（317.4万人）と2040年の拡大生産年齢人口（287.7万人）との比較でも約30万人減 <table border="1"> <tr><th></th><th>2020年</th><th>2040年</th></tr> <tr><td>生産年齢人口（15～64歳）</td><td>317.4万人</td><td>247.2万人</td></tr> <tr><td>拡大生産年齢人口（15～74歳）</td><td>358.4万人</td><td>287.7万人</td></tr> </table>			2020年	2040年	生産年齢人口（15～64歳）	317.4万人	247.2万人	拡大生産年齢人口（15～74歳）	358.4万人	287.7万人																																	
	2020年	2040年																																																	
認知症高齢者数	約27～29万人	約38～45万人																																																	
	2020年	2040年																																																	
生産年齢人口（15～64歳）	317.4万人	247.2万人																																																	
拡大生産年齢人口（15～74歳）	358.4万人	287.7万人																																																	
<b>目標</b> ① 医療、介護、予防、住まい、生活支援が地域単位で提供される仕組みの更なる深化・推進（2025・2040年を見据えた介護サービス基盤の整備）（システム） ② 高齢者の自己決定を尊重し、その持てる能力を發揮しながら生活を継続できる支援の実施（自立） ③ 医療や介護サービス及び地域住民、自治会・NPO等が互いに連携しながら提供するサービス、ケアの充実・推進（連携） ④ 高齢者をはじめとする地域住民が安心して、生きがいをもって暮らせる地域共生社会の実現に向けた取組の推進（安心）																																																			
<b>II 推進方策</b>																																																			
<b>1 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進</b>																																																			
<b>地域の状況を踏まえ介護サービスの充実強化</b>	<b>施策の方向性</b> ○2025・2040年を見据えた在宅・施設のパラレルな取れた介護サービス基盤の整備 ・中重度や医療ニーズを有する要介護者の在宅生活を支える介護サービス（定期巡回サービス、看護小規模多機能）の提供体制の拡充 ・都市部を中心とした特別養護老人ホーム（特養）の計画の整備 ・介護医療院への転換等支援 ○サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）等で特養並みの介護サービスを提供できる施設（特定施設）の推進	<b>主な取組</b> ○在宅介護緊急対策事業による定期巡回サービスの普及、事業者の参入促進 ・参入当初の人員費、施設整備費等補助 ・利用者、ケア、病院で退院調整を行うMSW等へのサービス内容/先進事例の周知 ・連携先の訪問看護事業所確保支援 ○看護小規模多機能整備費等補助、看護師確保支援 ○特養、介護医療院等介護保険施設整備費助成 ○新規に定期巡回サービス等を整備する場合の既存特養等介護保険施設の大規模改修助成 ○サ高住等の特定施設化に必要な施設改修等費用助成	<b>目標</b> ※下欄部：主な進捗取組事項 ○定期巡回/看多機：110事業所（2020.9）→220（2025）→300（2030） ○特養：27,468（2020）→30,095（2023）→31,378（2025） <table border="1"> <tr><th></th><th>2020年</th><th>2021年</th><th>2022年</th><th>2023年</th><th>2025年</th></tr> <tr><td>定期巡回/看多機</td><td>(110)</td><td>132</td><td>154</td><td>176</td><td>220</td></tr> <tr><td>定期巡回</td><td>(70)</td><td>84</td><td>98</td><td>112</td><td>140</td></tr> <tr><td>看多機</td><td>(40)</td><td>48</td><td>56</td><td>64</td><td>80</td></tr> <tr><td>特養</td><td>27,468</td><td>28,467</td><td>29,522</td><td>30,095</td><td>31,378</td></tr> <tr><td>(増加)</td><td></td><td>+999</td><td>+1,055</td><td>+573</td><td>-</td></tr> <tr><td>(うち都市部)</td><td></td><td>+870</td><td>+646</td><td>+325</td><td>-</td></tr> <tr><td>特定施設</td><td>20,233</td><td>21,679</td><td>22,742</td><td>23,517</td><td>24,359</td></tr> </table> ○サービス提供量（利用定員等）：約21万人（2020）→約24万人（2025）		2020年	2021年	2022年	2023年	2025年	定期巡回/看多機	(110)	132	154	176	220	定期巡回	(70)	84	98	112	140	看多機	(40)	48	56	64	80	特養	27,468	28,467	29,522	30,095	31,378	(増加)		+999	+1,055	+573	-	(うち都市部)		+870	+646	+325	-	特定施設	20,233	21,679	22,742	23,517	24,359
	2020年	2021年	2022年	2023年	2025年																																														
定期巡回/看多機	(110)	132	154	176	220																																														
定期巡回	(70)	84	98	112	140																																														
看多機	(40)	48	56	64	80																																														
特養	27,468	28,467	29,522	30,095	31,378																																														
(増加)		+999	+1,055	+573	-																																														
(うち都市部)		+870	+646	+325	-																																														
特定施設	20,233	21,679	22,742	23,517	24,359																																														
<b>1 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進</b>	<b>施策の方向性</b> ○地域共生社会の実現に向けた取組の推進 ○介護予防・生活支援等の一体的推進 ○通所サービス事業所等での協力的活動の推進 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 ○地域包括ケアの推進 ○多職種連携の推進等を通じた本人のQOL向上 ○地域包括支援センターの機能強化	<b>主な取組</b> ○総合相談体制の整備等市町の重層的支援体制整備事業の実施支援、生活支援コーディネーター研修、地域包括施設推進 ○住民主体の通いの場の魅力向上、多様な通いの場の推進 ○通いの場で「兵庫県版の介護予防・改善プログラム」活用促進、KDR等のサービス活用による地域の健康課題対応支援 ○介護予防や地域包括会議に連動、栄養、リハビリ専門職等多職種が参画する推進体制の整備及び専門職等の育成支援 ○地域包括支援センター職員の資質向上、人材確保等支援	<b>目標</b> ※下欄部：主な進捗取組事項 ○地域包括施設認定数：71（2020）→110施設（2023） ○住民主体の通いの場への参加者数 164,836人（2018）→228,000人（2023） ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組み市町：9市町（2020）→全市町（2023） ○ICDR専門職等が地域包括会議に参画する地域包括支援センターの割合 39.1%（2019）→57%（2023）																																																
<b>医療と介護連携の推進</b>	<b>施策の方向性</b> ○地域医療連携を踏まえた新たな在宅医療需要等への対応 ○医療と介護の双方のニーズを持つ高齢者への多職種連携による効果的なサービスの提供	<b>主な取組</b> ○訪問診療等サービス提供体制の充実 ○初任訪問看護師の地場訓練経費補助 ○市町への広域的研修（研修・セミナー提供等） ○医療・介護職向け研修の実施	<b>目標</b> ○訪問診療を実施している病院・診療所数 1,688箇所（2019）→2,195箇所（2023） ○訪問看護事業所（介護）指定数 701箇所（2019）→800箇所（2023）																																																
<b>認知症施策の推進</b>	<b>施策の方向性</b> ○認知症予防の意識醸成と取組促進 ○診断直後から切れ目ない医療・支援体制充実 ○本人発信の機会拡大、住民参画の地域づくり ○若年性認知症支援体制の充実	<b>主な取組</b> ○働き盛り世代への意識啓発 ○認知症疾患医療センター機能充実による地域支援ネットワーク強化 ○認知症の本人発信支援とチームレジの仕組み整備 ○県内各地域における若年性認知症の支援ネットワーク強化	<b>目標</b> ○認知症健診実施市町数 17市町（2019）→全市町（2025） ○認知症疾患医療センターにおける健診診療ネットワークを構築・分析するためのネットワーク構築（2025） ○認知症センター数 493,448人（2019）→600,000人（2025） ○チームレジの仕組み整備 2市町（2019）→全市町（2025）																																																
<b>高齢者の住環境の整備</b>	<b>施策の方向性</b> ○高齢者夫婦世帯等の住宅の住み替えや確保 ○自立介護入居者への介護サービス等の提供 ○自立した生活ができる適切な住宅改修 ○入居を拒まない民間賃貸住宅の供給	<b>主な取組</b> ○高齢者補助制度によるサ高住の登録促進 ○住宅改修業者登録制度の推進 ○P771改修費の助成 ○入居を拒まない賃貸住宅の登録、改修等への補助	<b>目標</b> ○高齢者向け住宅の拡大：5.0（2020）→5.7万戸（2025） （うちサ高住1.6（2020）→2.2万戸（2025）） ○高齢者居住のP771化率：59%（2020）→65%（2025）																																																
<b>2 介護人材の確保及び資質の向上並びに介護現場の生産性の向上</b>																																																			
<b>介護人材の確保・定着及び資質の向上並びに業務の効率化及び質の向上</b>	<b>施策の方向性</b> ○多様な人材の参入促進 ・外国人介護人材 ・中高年齢層等 ○介護人材のキャリアアップ支援 ・意欲や能力に応じた研修等 ・魅力ある職場づくり支援 ・入職者の定着促進 ○福祉・介護サービスの周知・理解 ○介護現場の生産性の向上（業務効率化とサービスの質の向上）	<b>主な取組</b> ○外国人介護人材（EPA、技能実習等）の活躍、定着支援（Dより外国人介護実習支援のDによる支援、日本語学習や介護研修による支援等） ○高齢者等の地域住民が介護周辺業務に従事する「ひょうご介護ボランティア推進事業」の推進 ○キャリアアップにつながる賃金体系、労働環境改善を要件とする「特定処遇改善加算」(2019年10月～月88万円の取得予定) ○サービス利用者等からのP771に対する訪問サービスの人材確保支援 ○若手介護職員の中高等生への魅力発信、キャリア甲子園による介護体験	<b>目標</b> ○介護職員の確保：9.7万人（2019）→10.6万人（2023） <table border="1"> <tr><th>(人)</th><th>2020年</th><th>2023年</th><th>2025年</th></tr> <tr><td>介護職員</td><td>99,100</td><td>105,800</td><td>(111,400)</td></tr> </table> ○外国人材受入数：838人（2020）→1,200人（2023） ○ひょうご介護ボランティア：139人（2019）→1,500人（2023） ○特定処遇改善加算取得支援数：300事業所（2023） ○中高生等への出前授業実施数：80（2020）→120（2023） ○介護ボランティア等導入P771施設等の育成数：50施設（2023） ○ICTの導入事業所等数：全事業所等の25%以上（2025） ○介護ボットの導入施設数：全施設等の25%以上（2025）	(人)	2020年	2023年	2025年	介護職員	99,100	105,800	(111,400)																																								
(人)	2020年	2023年	2025年																																																
介護職員	99,100	105,800	(111,400)																																																
<b>3 介護保険制度運営の適正化</b>	<b>施策の方向性</b> ○市町「適正化主要5事業」の実施促進・取組の質の向上、法令遵守・介護サービスの質確保等 ・適正化事業の専門人材育成、ノウハウの継承等 ・介護認定におけるパラレルの平準化 ・県と市町の監査体制の協力関係の強化 ○市町介護保険事業運営の適正化支援	<b>主な取組</b> ○市町「適正化主要5事業」(1)要介護認定適正化の取組、(2)P771点検、(3)住宅改修等の点検、(4)縦覧点検・医療情報との突合、(5)介護給付費通知に係る市町研修会の実施・充実 ○認定調査員、介護認定審査委員会等を対象とした要介護認定等に係る研修の実施・充実 ○県・市合同監査の推進、業務管理体制届出指導の推進	<b>目標</b> ○「適正化主要5事業」の県内市町実施率 ・P771点検：97.6%（40市町 2019） ・住宅改修点検：92.7%（38市町 2019）→実施市町増 ・介護給付費通知：95.1%（39市町 2019） ・要介護認定適正化、縦覧点検等：100%（2019）維持 ○P771点検に係る関係団体と連携した研修等の実施																																																
<b>4 高齢者が持てる力を発揮し生活を継続できる支援（災害・感染症対策の推進等）</b>																																																			
<b>高齢者が持てる力の発揮等（災害・感染症対策の推進等）</b>	<b>施策の方向性</b> ○高齢者の持てる力を活かす場の確保 ○高齢者にやさしいまちづくり ○多様な高齢者対策（災害・感染症対策の推進等）	<b>主な取組</b> ○高齢者の就労、生涯学習、地域参加（老人クラブ活動助成等）推進 ○公益的施設のP771化、公共交通のP771化促進事業 ○高齢者の交通安全対策や避難行動への支援 ○感染症対策の推進（施設等における感染症対策の取組への支援、県における衛生資材の備蓄、広域的な協力体制の構築等）	<b>目標</b> ○参加する地域活動が特にならない高齢者割合： 28%（2020年時点）以下（2025） ○3千人未満のP771整備数：10駅（2025） ○P771未導入率：66%（2020）→80%（2025） ○BCP（事業継続計画）策定事業所等：全事業所等（2025）																																																

(図 I-3) 兵庫県老人福祉計画（第8期介護保険事業支援計画）概要版 資料抜粋

姫路市内においても、2018年度より介護人材確保や定着に向けた取組として、介護に関する相談窓口

や情報センターの設置、高校生や介護に興味のある人を対象としたインターンシップ支援、交流を目的とした研修事業等が実施され、介護の質の確保や介護人材の定着に向けた取組が行われており、令和3年3月に策定された、第8期姫路市高齢者保健福祉計画および姫路市事業計画（図I-4）においても、基本理念を「高齢者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら健やかに暮らせる姫路（まち）の実現」とし、5つの基本目標が掲げられている。なかでも、基本目標5の安定した介護サービスの提供においては、重点目標として、「多様な人材の参入促進」「人材の育成・資質の向上」「離職防止と定着支援」「介護人材の確保・定着支援」などの具体的な取組が計画されている。


## IV 基本理念

### ◆ 基本理念

本計画では、高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持ちながら健康でいつまでも暮らし続けることができるとともに、心身の状況や環境等に応じて適切な介護サービスを受けることができるよう、「高齢者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら健やかに暮らせる姫路の実現」を基本理念として定めます。

### 基本理念

**高齢者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら  
健やかに暮らせる姫路の実現**



### ◆ 基本目標

#### 基本目標 1 生きがいを感じながら暮らすための支援の充実

人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。

#### 基本目標 2 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築

日常生活圏域単位で市民に身近な場所に地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて他分野との連携を進めていきます。

#### 基本目標 3 地域で暮らし続けるための支援の充実

虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用とリハビリテーション提供体制の充実を図ります。また、医療介護連携の推進により、多職種によるサービス提供を進め、在宅での療養の継続を目指します。

#### 基本目標 4 認知症とともに暮らす地域の実現

認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる・認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取組を推進します。

#### 基本目標 5 安定した介護サービスの提供

本市の高齢者人口は増え続けており、今後も介護サービスの利用者の増加と給付費の増大が見込まれます。介護者の介護による離職を防止し、利用者や家族が安心してサービスを利用するには、サービス基盤の整備や介護人材を確保し、サービス提供体制を維持する一方、介護者への相談支援・職場環境の改善に取り組む必要があります。

また、介護を必要とする者を適正に認定し、真に必要な過不足ないサービスを提供するため、介護給付の適正化を推進し、介護保険制度の持続可能性を高めていきます。

（図I-4）第8期姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画 概要版 資料抜粋

しかしながら、介護現場の人材不足は喫緊の課題となっており、国や県が示す、介護ロボットの導入やICTへの導入について、事業所や施設の業務の負担軽減に向けた考え方や導入に対する思いに、やばらつきがあるのではないかとすることを念頭に、今回姫路市における介護ロボットやICT導入の状況について調査をすすめる。

本調査では、高齢化の進展に伴って介護サービスを利用する高齢者が急増していく介護職員の慢性的な人手不足という課題に対して、介護ロボットやICTの導入に着目し、実態を調査することにより、姫路市における介護人材の安定的な確保や定着と介護負担の軽減に向けた今後の施策を検討していくための課題を明らかにしていく。

なおこの調査は、姫路市の委託を受けはりま総合福祉評価センターが実施するものである。

### 参考・引用・出典

厚生労働省：第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について 令和3年7月9日

社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 室長補佐・マンパワー企画係長

厚生労働省：「科学的介護情報システム（LIFE）」の活用等について 令和3年2月19日

厚生労働省老健局老人保健課

兵庫県：兵庫県老人福祉計画（第8期介護保険事業支援計画） 令和3年3月策定

兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢政策課

姫路市：第8期姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画 令和3年3月策定

姫路市役所 長寿社会支援部

## II 介護ロボット等・ICT導入に関する調査の概要

### 1. 介護事業所に対する調査の概要

姫路市内の介護事業所における介護負担の軽減や人材確保・定着を目的として、市内の全介護保険事業所を対象に、介護ロボット等・ICT導入についてGoogleフォームによるWEBアンケートを下記の通り実施した。

#### (1) 対象事業所

姫路市内の介護保険事業所（居宅療養管理指導を除く）901事業所を対象とした。

#### (2) 調査日時・方法

令和3年10月1日に対象となる901事業所に対して、姫路市介護保険課よりメールと文書を送付し、GoogleフォームによるWEBアンケートを求め、118事業所から回答が得られ、回収率は13%であった。

#### (3) 調査項目

調査項目の概要を下記に示した。アンケートの詳細は、巻末資料に掲載した。

- ①基本情報について：介護サービス種別・従業員数・勤務従業員の職種・従業員の平均年齢・平均介護度
- ②導入している介護ロボット等・ICTの種類
- ③介護ロボット等・ICTの業務内容
- ④介護ロボット等・ICTにかかった初期費用の概算
- ⑤介護ロボット等・ICTの導入前と比較して良かったと思われる点
- ⑥介護ロボット等・ICTの導入前と比較して悪くなったと思われる点（課題）
- ⑦介護ロボット等・ICTの導入によって感じる職員の反応
- ⑧兵庫県が実施する在宅介護事業所における業務効率化支援事業・介護保険施設における業務効率化支援事業などの活用状況
- ⑨姫路市が実施する姫路市産業デジタル化支援補助金の活用状況
- ⑩介護ロボット等・ICTに関する情報入手の方法
- ⑪介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対するご要望やご意見等

#### (4) 倫理的配慮

アンケート説明文に収集したデータは統計資料として用いるとともに、回答した事業所名が公表されない旨を明記し、同意が得られた事業所のみを対象とした。

### 2. 介護従事者に対する調査の概要

姫路市内の介護事業所における介護負担の軽減や人材確保・定着を目的として、市内の全介護保険事業所の介護従事者等を対象に、介護ロボット等・ICT導入についてGoogleフォームによるWEBアンケートを下記の通り実施した。



#### (1) 対象者

姫路市内の介護保険事業所（居宅療養管理指導を除く）901事業所で働く介護従事者等（※1）を対象とした。

※1 介護従事者等とは、介護現場で仕事をする介護職員や看護職員、生活相談員等介護業務に携わる者を指している。

#### (2) 調査日時・方法

令和3年10月1日に対象となる901事業所に対して、姫路市介護保険課よりメールと文書を送付し、GoogleフォームによるWEBアンケートを求め、113名から回答が得られた。

#### (3) 調査項目

調査項目の概要を下記に示した。アンケートの詳細は、巻末資料に掲載した。

- ①基本情報について：年齢・性別・従事しているサービス種別・従事している職種
- ②使ったことがある介護ロボット等・ICTの種類
- ③介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、良かったと思われる点や効果があったと思われる点
- ④介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、悪くなったと思われる点や課題となっていると思われる点
- ⑤介護ロボット等・ICTの導入によって周りの職員の反応
- ⑥介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対するご要望やご意見等

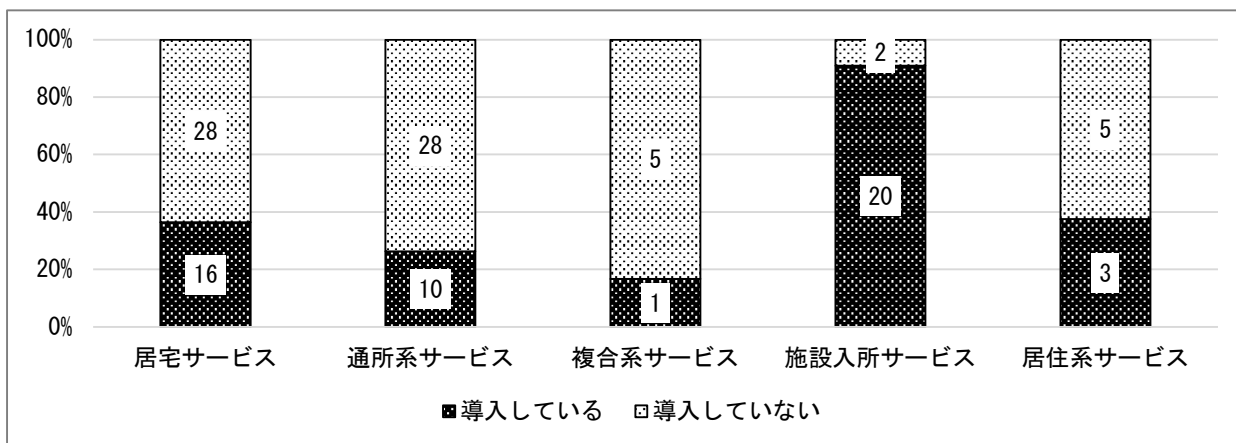
#### (4) 倫理的配慮

アンケート説明文に収集したデータは統計資料として用いるとともに、回答した個人が公表されない旨を明記し、同意が得られた個人のみを対象とした。

### Ⅲ 介護ロボット等・ICT導入に関する課題の整理

介護ロボット等・ICT導入に関する課題を以下の通り整理する。

介護ロボットやICTを導入している事業所は、118事業所中45事業所(38%)、導入していない事業所は73事業所(62%)という結果となった。また、サービスの内容に応じた種別を「居宅系サービス」・「通所系サービス」・「複合系サービス」・「入所系サービス」・「居住系サービス」の5種類に分けて集計した結果、介護ロボットやICTを導入しているサービス種別としては、施設入所サービスが22事業所中20事業所と最も多く約90%の施設や事業所が導入していた。次いで、居住系サービスの8事業所中3事業所の約37%、続いて居宅サービスの44事業所中の16事業所で約36%という結果となった。一方、最も導入の割合が進んでいないサービス種別では、複合系サービスの6事業所中1事業所で約16%という結果となった(図Ⅲ-1)

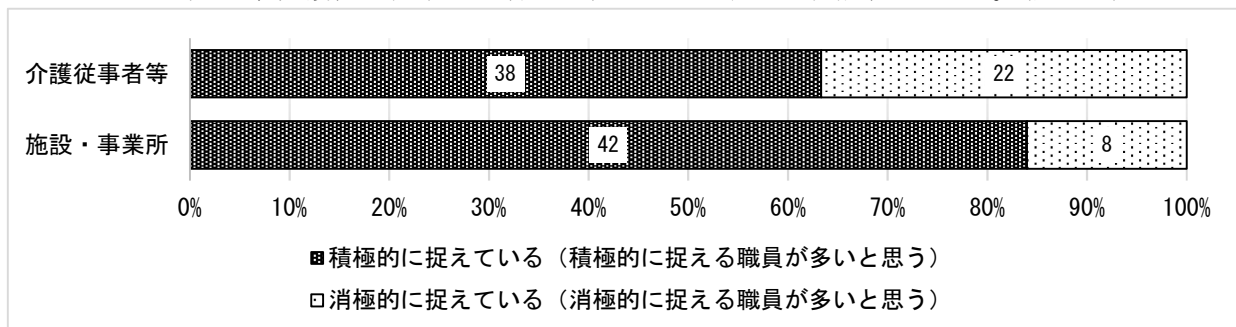


(図Ⅲ-1) サービス種別ごとの介護ロボット・ICTの導入割合

また、図Ⅲ-3のグラフに示したように、排泄支援や移動移乗などの直接的な介護ロボットの導入が進んでいないことが明らかになった一方、介護業務支援(記録支援システム)やレセプト業務(請求業務)などの間接的なICTの導入がおおむね全サービス種別で進んでいることがうかがえた。この背景には、どのような課題があるのかを以下の4つの課題を抽出し、整理した。

#### 1. 介護ロボットやICTを導入することへの施設・事業所側と職員の意識の違い

具体的な介護ロボットやICTの導入の種類を整理するうえで、施設や事業所側の導入に対する意識と介護従事者等が感じている意識を比較した結果、施設や事業所側で「積極的に捉えている職員」は42件の回答となり84%だったことに対して、介護従事者等は38件の回答となり62%だった。一方で、施設や事業所側で「消極的に捉えている職員」は8件の回答となり16%だったことに対して、介護従事者等は22件の回答となり36%という結果となった。(図Ⅲ-2)



(図Ⅲ-2) 施設・事業所側と介護従事者の介護ロボット・ICT導入への意識の比較

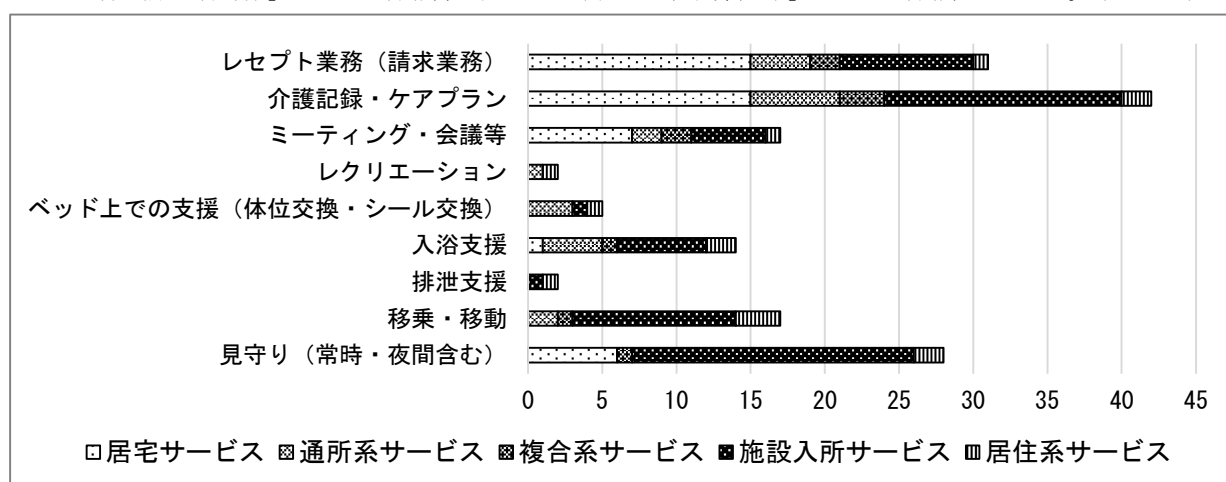
介護ロボットやICTの導入について、施設や事業所側と介護従事者側の意識の比較を通して確認した結果、全体的に「積極的に捉えている」結果となった。しかし、介護従事者の意識として1/3の介護従事者が「消極的に捉えている」と感じていることが分かった。

微量ではあるが、施設や事業所側と介護従事者側の意識の違いが明らかになったことから、介護従事者への説明と理解を促す取り組みに課題をあることを指摘する。

次に、この意識の違いがなぜ生まれるかを次の項目で整理する。

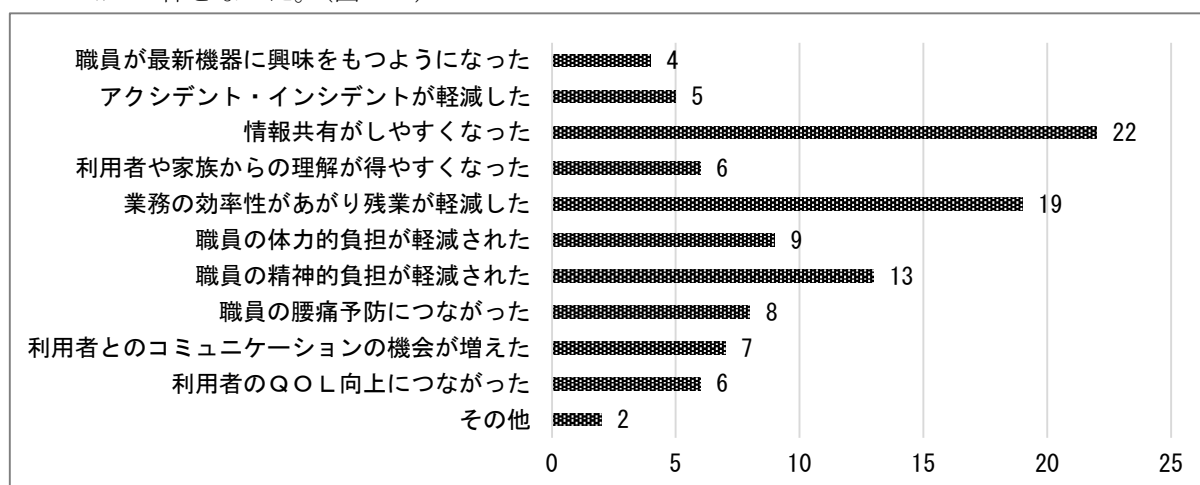
## 2. 直接介護に関する介護ロボットの導入が進んでいない

5つのサービス種別に分け、介護ロボットやICTなどの業務内容を分類したものをクロス集計した結果、「介護記録・ケアプラン」が最も多く、42事業所が導入しており、次いで「レセプト業務（請求業務）」が31事業所、「見守り（常時・夜間含む）」が28事業所となった。（図Ⅲ-3）



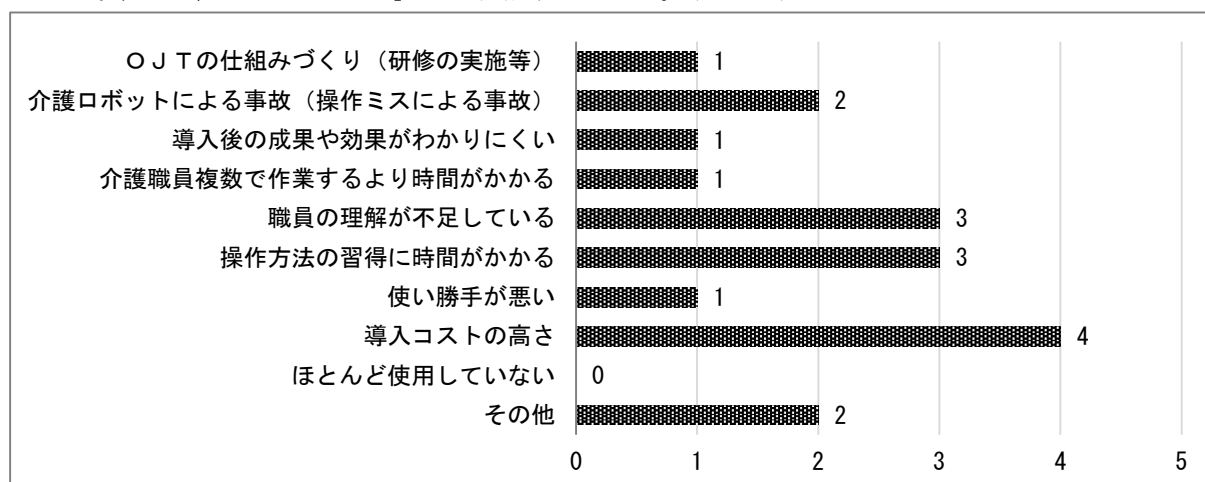
（図Ⅲ-3）サービス種別ごとの介護ロボット・ICTの導入

次に最も多くの事業所が導入していた「介護記録・ケアプラン」の導入をした事業所がどのような成果を感じているかを絞り込み確認した結果、「情報共有がしやすくなった」が22件と最も多く、次いで「業務の効率性があがり残業が軽減した」が19件、「職員の精神的負担が軽減した」が13件となった。（図Ⅲ-4）



（図Ⅲ-4）介護記録・ケアプランを導入した事業所の良かった点

一方、導入が進んでいない「排泄支援」や体位交換やシーツ交換などの「ベッド上での支援」、  
「レクリエーション」を導入している事業所がどのようなことに課題を感じているかを絞り込み、  
確認した結果、「導入コストの高さ」が最も多く、次いで「操作方法の習得に時間がかかる」「職  
員の理解が不足している」という結果になった。(図Ⅲ-5)



(図Ⅲ-5) 排泄支援・ベッド上での支援・レクリエーションを導入した事業所の課題

介護保険制度施行から、20年以上が経過し、これまで「手書き」で行ってきた業務の効率化を  
図るために、タブレット端末の導入や介護記録等の記録支援システムの導入のほか、コロナ禍に  
よる、人と人との接触ができないなか、インターネットからの情報収集やオンラインでのビデオ  
通話など、間接的な支援が大きな成果をあげていると考えられる。

また、「介護ロボット」や「ICT」の定義は厚生労働省から、『情報を感知(センサー系)、判  
断し(知能・制御系)、動作する(駆動系)この3つの要素技術を有する、知能化した機械システ  
ム』と定義されているとともに、『ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽  
減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいる。』と示されているが、「介護ロボット」や「I  
CT」の具体的なイメージを持つことができる業務内容ではないことも課題ではないかと考えら  
れる。また、『令和3年度 兵庫県介護業務における労働環境改善支援事業 補助対象機器一覧』  
においても、分野や会社名、機器名が示された108個の介護ロボットやICTの具体的な名称が  
示されているが、商品の使い方や効果などの客観性がなく、非常にわかりづらいと感じる。

特に、介護の仕事の代表的な支援として、「入浴」「食事」「排泄」といった、人の手で直接支援  
してきた、業務内容を「介護ロボット」に任せるといふ多少の抵抗感があるのではないかと。また、  
操作方法の習得や操作ミスによる事故などのネガティブなイメージとともに、導入コストの高さ  
による、経済的な問題も相まって、直接支援に関する「介護ロボット」の導入が進んでいないこ  
とが容易に想像できる。今後も続く、介護人材不足の軽減を図るためにも、まずは「直接介護に  
関する介護ロボット」の導入を進めるためには、導入の成果や具体事例などを明らかにしてい  
くことや体験する機会が少ないことを指摘するとともに、その根拠について以下の項目で整理する。

### 3. 介護ロボット・ICTを体験する機会の不足

介護ロボットやICTを導入する成果や具体的な好事例に触れたり、体験する機会がない課題  
指摘の根拠として、本調査項目の最後に施設・事業所側や介護従事者等からの姫路市への要望を

自由記述してもらった。

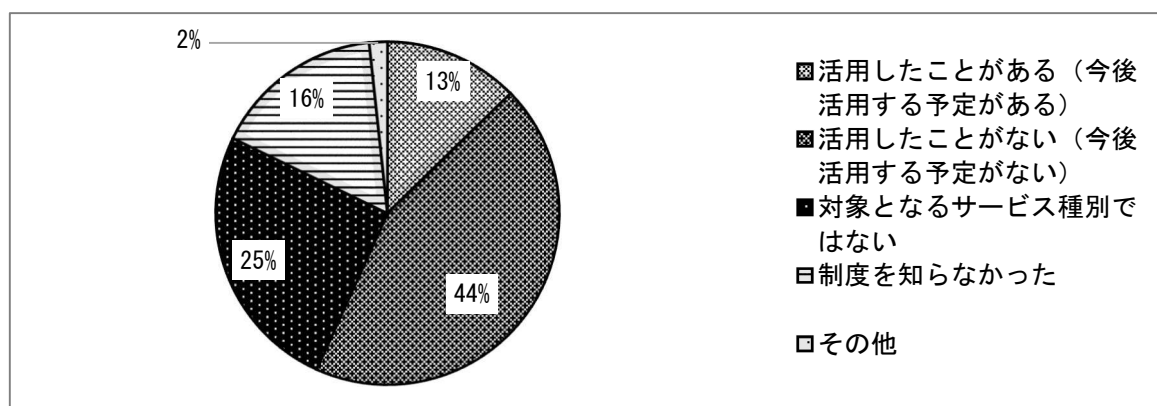
その内容として、「詳しい情報をわかりやすく提示してほしい」「情報の発信だけに留まらず、介護ロボット等・ICT 関連の勉強会や研修会及び機器に関する説明会の継続的な実施をしてほしい」「デモ機の貸出や法人が現場を支援する為に導入したくなるような仕掛けを図っていただけたらと思う」「機器のレンタルなど、試用期間の設定があればと思う」「展示会開催や他施設の運用方法等情報を知りたい。」「実際に使用体験をしてみたい」など、介護ロボットやICTを導入した際のイメージを持つことができない現状が介護現場にはあることが、最も介護ロボットやICTの導入が進まない要因になっていることを指摘する。

#### 4. 介護ロボット・ICTの導入に関する県や市の助成事業の周知不足

前項で指摘した、体験の機会の前提には情報を届けることの重要性が感じられ、本調査についての情報提供に関する調査結果を以下にまとめる。

##### 兵庫県が実施する事業

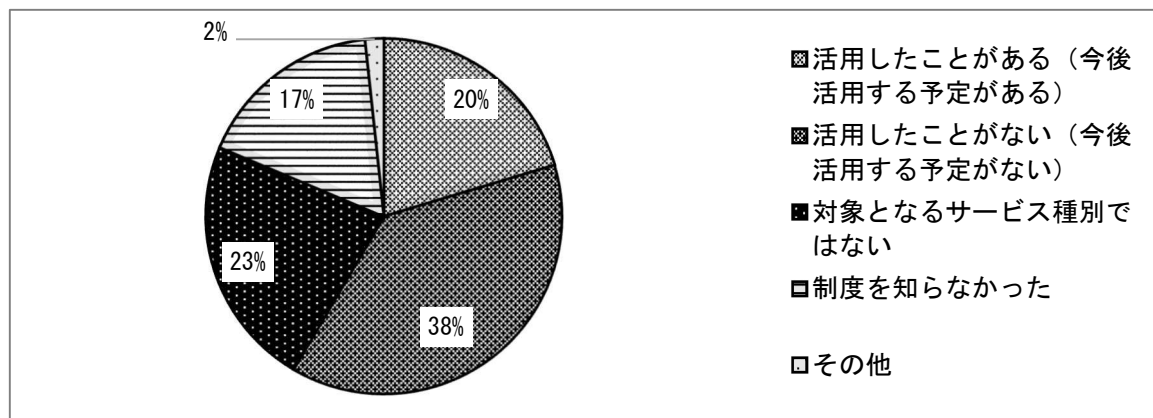
以下は、兵庫県が実施する在宅介護事業所における業務効率化支援事業と介護保険施設における業務効率化支援事業の活用状況について調査した結果となっている。在宅介護事業所における業務効率化支援事業を「活用したことがある（今後活用する予定がある）」と回答した事業所は15事業所（13%）、「活用したことがない（今後活用する予定がない）」と回答した事業所は52事業所（44%）、「対象となるサービス種別ではない」と回答した事業所は30事業所（25%）、「制度を知らなかった」と回答した事業所は19事業所（16%）、「その他」の回答が2事業所（2%）となり、その他の意見として、「今後活用を検討している」、「興味があるので検討したい」といった回答が得られた。（図Ⅲ-6）



（図Ⅲ-6）在宅介護事業所における業務効率化支援事業の活用状況（兵庫県実施事業）

次に、介護保険施設における業務効率化支援事業を「活用したことがある（今後活用する予定がある）」と回答した事業所は24事業所（20%）、「活用したことがない（今後活用する予定がない）」と回答した事業所は45事業所（38%）、「対象となるサービス種別ではない」と回答した事業所は27事業所（23%）、「制度を知らなかった」と回答した事業所は20事業所（17%）、「その他」の回答が2事業所（2%）となり、その他の意見として、在宅介護事業所における業務効率化支援事業で得られた回答と同じく「今後活用を検討している」、「興味があるので検討したい」といった回答が

得られた。(図Ⅲ-7)

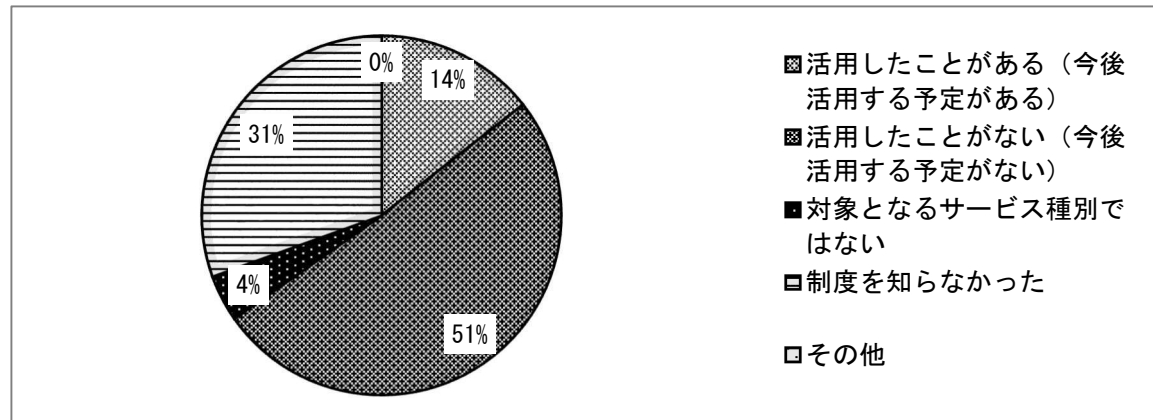


(図Ⅲ-7) 介護保険施設における業務効率化支援事業の活用状況（兵庫県実施事業）

### 姫路市が実施する事業

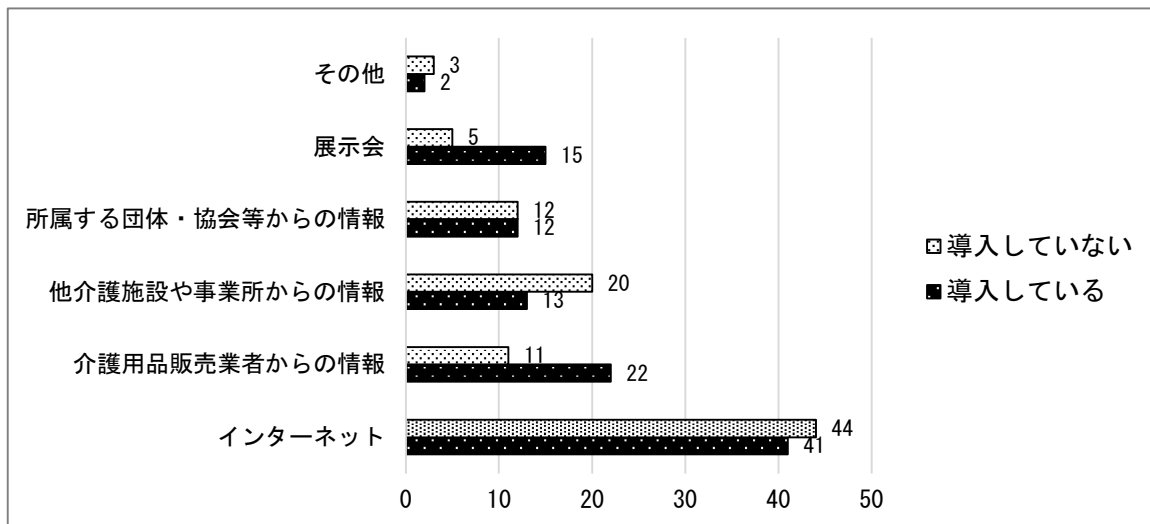
以下は、姫路市が実施する姫路市産業デジタル化支援補助金についての活用状況について調査した結果となっている。

姫路市産業デジタル化支援補助金を「活用したことがある（今後活用する予定がある）」と回答した事業所は 17 事業所（14%）、「活用したことがない（今後活用する予定がない）」と回答した事業所は 60 事業所（51%）、「対象となるサービス種別ではない」と回答した事業所は 5 事業所（4%）、「制度を知らなかった」と回答した事業所は 36 事業所（31%）、「その他」の回答は見られなかった。(図Ⅲ-8)



(図Ⅲ-8) 姫路市産業デジタル化支援補助金の活用状況（姫路市実施事業）

介護ロボット・ICT等に関する情報入手の方法について、「導入している事業所」・「導入していない事業所」ごとに、クロス集計した結果、それぞれ「インターネット」からの情報の入手が最も多く、「導入している事業所」は、「介護用品販売業者からの情報」が上位2位となり、次いで「展示会」という結果になった。一方「導入していない事業所」は、「他介護施設や事業所からの情報」が上位2位となり、次いで「所属する団体・協会等からの情報」という結果になった。その他の意見として、「市役所からの情報提供」、「事務機器用品の弊社担当からの情報提供」といった回答が得られた(図Ⅲ-9)



(図Ⅲ-9) 導入している事業所・導入していない事業所の介護ロボット・ICT等に関する情報入手の方法

これまで、指摘した内容を整理すると、「介護ロボットやICTを導入することへの施設・事業所側と職員の意識の違い」が生まれる要因には、そもそも、介護ロボットやICTの定義がわかりにくく、直接的な介護をロボットを使って支援することへの抵抗感やその効果がわからない事が原因として考えられ、結果的に介護業務支援（記録支援システム）やレセプト業務（請求業務）などの間接的なICTの導入が進みつつある一方で、「直接介護に関する介護ロボットの導入が進んでいない」ことが考えられた。また「体験する機会の不足」とともに、「介護ロボット・ICTの導入に関する県や市の助成事業の周知不足」も相まって、姫路市における介護人材の安定的な確保や定着、介護負担の軽減に向けた介護ロボットやICTの導入が進まない原因があることを課題として整理する。

## IV 介護ロボット等・ICT導入に向けた事業提案

前項で整理した課題に対し、介護ロボット等・ICT導入について、以下の通り、事業案を提案する。

### 1. 介護ロボットやICTについてのイメージアップ

介護ロボットやICTを使うことによる、利用者に対する安心と安全な支援の質の確保とともに、介護人材不足を補うための介護従事者の負担軽減を図ることが、介護ロボットやICTを用いる目的であれば、介護ロボットやICTについてのイメージアップを図る事が重要と考えられる。イメージアップを図るための事業提案として

- (ア) 介護ロボットやICTに関する研修や直接体験できる研修の実施
- (イ) 介護ロボットやICTに関するイメージアップを図るための好事例などの取り組みを冊子にまとめたものを介護事業所へ情報提供する。
- (ウ) 介護ロボットやICTを導入している事業所から直接話を聞ける機会として、姫路市内の事業所間での情報交換の機会を作る。

### 2. 介護ロボットやICTに触れる機会をつくる

施設や事業所それぞれに目指すべき方向性や考え方の多少の違いはあることを前提に介護ロボットやICTを導入するきっかけとして、まずは介護ロボットやICTに触れる機会をつくる事が重要と考えられる。

- (ア) 介護ロボットやICTに関する研修や直接体験できる研修の実施
- (イ) 介護ロボットやICTに関するデモ機の貸し出しやレンタルに係る費用の助成

### 3. 介護ロボット・ICTの導入に関する県や市の助成事業の積極的な周知

兵庫県からの情報提供や姫路市からの情報提供が定期的に行われているが、周知する際の工夫も必要ではないかと考えられる。

- (ア) 介護ロボットやICTに関する各種助成事業等の情報を発信する際に、介護ロボットやICTに関するイメージアップを図るための好事例などの取り組みを冊子にまとめ一緒に情報提供する。
- (イ) 介護ロボットやICTに関する助成事業等の情報をメールや文書を通じて、施設や事業所に対して、定期的かつ継続的に情報提供する。



## **V** 卷末參考資料

## 事業所様向け 介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査 集計結果

### (1) 対象事業所

姫路市内の介護保険事業所（居宅療養管理指導を除く）901事業所を対象とした。

### (2) 調査日時・方法

令和3年10月1日に対象となる901事業所に対して、姫路市介護保険課よりメールと文書を送付し、GoogleフォームによるWEBアンケートを求め、118事業所から回答が得られ、回収率は13%であった。

### 基本情報1. サービス種別（予防含む）

居宅介護支援	14
訪問介護	22
訪問看護	5
訪問リハビリテーション	0
訪問入浴	1
通所介護	17
通所リハビリテーション	1
短期入所生活介護	1
短期入所療養介護	0
特定施設入居者生活介護	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2
地域密着型通所介護	19
認知症対応型通所介護	1
認知症対応型共同生活介護	8
小規模多機能型居宅介護	5
看護小規模多機能型居宅介護	1
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1
介護老人福祉施設	17
介護老人保健施設	1
介護療養型医療施設	0
介護医療院	0
その他	0
合計	118

### 基本情報2. 従業員数

1人以上～5人未満	19
5人以上～10人未満	26
10人以上～20人未満	34
20人以上～50人未満	26

50人以上～100人未満	12
100人以上	1
合計	118

### 基本情報3. 勤務している従業員の職種

介護職員	99
生活相談員	59
介護支援専門員	54
看護師（准看護師含む）	75
理学療法士	19
作業療法士	14
柔道整復師	5
言語聴覚士	2
管理栄養士（栄養士含む）	23
その他	24

その他の回答

施設長・事務員・調理員・運転手・介護助手・掃除等の職員・あん摩・マッサージ・指圧師、鍼師、灸師・宿直員・園芸療法士・音楽療法士

### 基本情報4. 従業員の平均年齢

20代	1
30代	14
40代	55
50代	42
60代	6
その他	0
合計	118

### 基本情報5. 平均介護度（小数点第1位）

要支援	1.75
要介護	2.74

**問1. 導入している介護ロボット等・ICTの種類（複数回答）**

導入していない	73
移乗支援（装着）	3
移乗支援（非装着）	6
移動支援（屋外）	3
移動支援（屋内）	11
移動支援（装着）	0
排泄支援（排泄物処理）	1
排泄支援（トイレ誘導）	3
排泄支援（排泄動作）	1
見守り・コミュニケーション支援（施設）	22
見守り・コミュニケーション支援（在宅）	3
見守り・コミュニケーション支援（生活支援）	2
入浴支援	17
介護業務支援（記録支援システムなど）	21
その他	3

その他の回答

- ・入浴時、浴槽へ移動用リフト・ipad・入浴時に浴槽をスライドさせる機器

**問2. 介護ロボット等・ICTを使っている場合の業務内容**

導入していない	66
見守り（夜間のみ）	9
見守り（常時）	19
移乗（ベッド、車椅子、トイレ等への乗り移り）	10
排泄支援	2
入浴支援	14
寝返り・体位交換	3
シーツ交換	2
屋内移動	4
屋外移動	3
レクリエーション	2
介護記録	28
ケアプラン	15
ミーティング・会議等	17
レセプト業務（請求業務）	31
その他	0

**問3. 導入している介護ロボット等・ICTにかかった初期費用の概算**

導入していない	68
30万円未満	15
30万円以上～50万円未満	5
50万円以上～100万円未満	9
100万円以上～300万円未満	11
300万円以上～500万円未満	1
500万円以上～1000万円未満	6
1000万円以上	3
合計	118

**問4. 介護ロボット等・ICTの導入前と比較して良かったと思われる点**

導入していない	67
利用者のQOL向上につながった	11
利用者とのコミュニケーションの機会が増えた	10
職員の腰痛予防につながった	16
職員の精神的負担が軽減された	18
職員の体力的負担が軽減された	16
業務の効率性があがり残業が軽減した	19
利用者や家族からの理解が得やすくなった	9
情報共有がしやすくなった	24
アクシデント・インシデントが軽減した	17
職員が最新機器に興味をもつようになった	5
その他	3

その他の回答

- ・ 昨年事業開始のタイミングで導入したため比較できず
- ・ 緊急事態宣言時にテレワークの導入が出来た。
- ・ 会議に参加する移動時間が削減できた

**問5. 介護ロボット等・ICTの導入前と比較して悪くなったと思われる点**

導入していない	67
ほとんど使用していない	2
導入コストの高さ	20
使い勝手が悪い	3
操作方法の習得に時間がかかる	18
職員の理解が不足している	21
介護職員複数で作業するより時間がかかる	2
導入後の成果や効果がわかりにくい	2
介護ロボットによる事故（操作ミスによる事故）	15

○ J T の仕組みづくり（研修の実施等）	3
その他	13

その他の回答

- ・ 昨年事業開始のタイミングで導入したため比較できず
- ・ 特に課題は見当たらない
- ・ 特に問題はない
- ・ ソフトの内容が一長一短で、すべての事務作業が網羅できない。網羅しよとおもうと、ソフト代が高額または、更新に費用がかかりすぎる。

#### 問 6. 介護ロボット等・ICTの導入によって感じる職員の反応

導入していない	68
積極的に捉えている（積極的に捉える職員が多いと思う）	42
消極的に捉えている（消極的に捉える職員が多いと思う）	8
その他	0
合計	118

#### 問 7. 在宅介護事業所における業務効率化支援事業（兵庫県実施）の活用

活用したことがある（今後活用する予定がある）	15
活用したことがない（今後活用する予定がない）	52
対象となるサービス種別ではない	30
制度を知らなかった	19
その他	2
合計	118

その他の回答

- ・ 今後活用を検討している
- ・ 興味があるので検討したい

#### 問 8. 介護保険施設における業務効率化支援事業（兵庫県実施）の活用

活用したことがある（今後活用する予定がある）	24
活用したことがない（今後活用する予定がない）	45
対象となるサービス種別ではない	27
制度を知らなかった	20
その他	2
合計	118

その他の回答

- ・ 今後活用を検討している
- ・ 興味があるので検討したい

### 問9. 姫路市産業デジタル化支援補助金の活用

活用したことがある（今後活用する予定がある）	17
活用したことがない（今後活用する予定がない）	60
対象となるサービス種別ではない	5
制度を知らなかった	36
その他	0
合計	118

### 問10. 介護ロボット等・ICTに関する情報を入手している方法

インターネット	85
展示会	20
介護用品販売業者からの情報	33
所属する団体・協会等からの情報	24
他介護施設や事業所からの情報	33
その他	5
無回答	2

その他の回答

- ・事務機器用品の弊社担当からの情報
- ・知らなかった
- ・メール

### 問11. 介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対する要望や意見等

- ・ヘルパー高齢化に伴い機械を使いこなせるか不安
- ・前年度の導入時には大変お世話になりました。以後できれば積極的に活用していきたいと考えていますので、情報提供等をよろしくお願い致します。
- ・詳しい情報をわかりやすく提示していただきたい。
- ・情報の発信だけに留まらず、介護ロボット等・ICT 関連の勉強会や研修会及び機器に関する説明会の継続的な実施。並びに、デモ機の貸出や法人が現場を支援する為に導入したくなるような仕掛けを図っていただけたらと思います。（更なる補助金の新設や、市独自の機器導入に向けたオリジナルな支援策の作成など。導入した事業所（法人）へは、市の独自評価（可視化）の導入など、是非とも検討していただければと思います。実際に導入したいと考えていても、現場と法人に温度差があることや、コロナ禍による救済措置の加算だけではマイナス分を補填できないことなど、導入に繋がらないことが現状である為。）
- ・県が募集する業務効率化を目的とした助成金では、インカムの導入やネットワーク環境の改善、見守りセンサーを導入するため申請済だが、今後自然災害など緊急時に備えて職員の緊急連絡手段をICTを活用した手段で対応できないかと考えている。施設、法人独自に整えるべきものであるとは理解しているが、プライバシーにかかわる個人携帯電話で連絡網を築くよりも、例えば職員全員に緊急連絡のみを目的とした機器を常時所持してもらい、緊急連絡などの重要な情報伝達や非常招集連絡などを一斉送信することができる体制があれば便利だと考える。しかしながら、そうなれば高額な費用や厳格なルール作りが必要だと考えている。

- ・行政とともに手段を見つけていけるのであればご協力を得たい。  
また、災害対策としての取り組みに対し、負担の軽減を図っていただければお願いしたい。
- ・介護ロボットの補助金対象機器をもっと増やして欲しい
- ・姫路市のデジタル化支援補助金は助かりました。ありがとうございました。
- ・コロナ禍で業績悪化の為、導入には程遠い状態です。従業員の為には負担軽減のため導入したいですが、到底実施できそうないのが現状です。
- ・介護保険事業所のソフトが同一ならば、クラウドで確認できて便利だと思います。
- ・機器のレンタルなど、試用期間の設定があればと思う。
- ・今のところございませんが、何かありましたらご連絡させていただきます。
- ・今後とも情報をお知らせ頂けると助かります。よろしくお願い致します。
- ・特にありません。



## 介護従事者向け 介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査 集計結果

### (1) 対象者

姫路市内の介護保険事業所（居宅療養管理指導を除く）901事業所で働く介護従事者等（※1）を対象とした。

※1 介護従事者等とは、介護現場で仕事をする介護職員や看護職員、生活相談員等介護業務に携わる者を指している。

### (2) 調査日時・方法

令和3年10月1日に対象となる901事業所に対して、姫路市介護保険課よりメールと文書を送付し、GoogleフォームによるWEBアンケートを求め、113名から回答が得られた。

### 基本情報1. 年齢

10代	0
20代	9
30代	26
40代	36
50代	26
60代	15
70代	1
合計	113

### 基本情報2. 性別

男性	41
女性	71
回答しない	1
合計	113

### 基本情報3. 従事しているサービス種別

介護系の通所サービス（デイサービスなど）	33
医療系の通所サービス（デイケアなど）	2
介護系の訪問サービス（ホームヘルプサービス・訪問入浴など）	27
医療系の訪問サービス（訪問看護・訪問リハビリテーションなど）	2
介護系の入所サービス（特別養護老人ホームなど）	24
医療系の入所サービス（介護老人保健施設・介護医療院など）	2
介護系の複合サービス（小規模多機能型居宅介護）	9
医療系の複合サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	1
介護系の居住系サービス（認知症グループホーム・介護付き有料老人ホームなど）	7
居宅介護支援事業所	6

その他	0
合計	113

#### 基本情報 4. 従事している職種

介護職員	66
看護職員	4
介護支援専門員（ケアマネジャー）	10
生活相談員	16
リハビリテーション専門職員	2
管理栄養士（栄養士含む）	0
管理者	14
その他	1
合計	113

#### 問 1. 現在勤められている事業所や過去に勤めていた事業所で使ったことがある介護ロボット等・

##### ICTの種類

導入していない	55
移乗支援（装着）	9
移乗支援（非装着）	4
移動支援（屋外）	11
移動支援（屋内）	16
移動支援（装着）	0
排泄支援（排泄物処理）	1
排泄支援（トイレ誘導）	2
排泄支援（動作支援）	1
見守り・コミュニケーション（施設）	37
見守り・コミュニケーション（在宅）	1
見守り・コミュニケーション（生活支援）	3
入浴支援	20
介護業務支援（記録支援システムなど）	30
その他	2

その他の回答

- ・ ipad・眠りスキャン

#### 問 2. 介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、良かったと思われる点や効果があったと思われる点

導入していない	51
利用者のQOL向上につながった	7
利用者とのコミュニケーションの機会が増えた	6

腰痛予防につながった	14
精神的な負担軽減につながった	14
体力的な負担軽減につながった	23
残業が軽減につながった	3
利用者や家族からの理解が得やすくなった	5
情報共有がしやすくなった	23
アクシデント・インシデントが軽減した	23
その他	2

その他の回答

- ・ 昨年事業開始時に導入したため不明

**問3. 介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、悪くなったと思われる点や課題となっていると思われる点**

導入していない	51
ほとんど使用していない	3
使い勝手が悪い	9
操作方法の習得に時間がかかる	24
介護職員複数で作業するより時間がかかる	0
利用者のQOL向上につながっているかが分かりにくい	6
保守・メンテナンスがわからない	22
介護ロボットによる事故（操作ミスによる事故）	2
その他	8
無回答	3

その他の意見

- ・ 昨年事業開始時に導入したため不明
- ・ 特にない
- ・ 思いつかない
- ・ もっと効率的で便利になることが望ましい
- ・ 保守やメンテナンスに費用がかかる

**問4. 介護ロボット等・ICTの導入によって周りの職員の反応**

導入していない	52
積極的に捉えている（積極的に捉える職員が多いと思う）	38
消極的に捉えている（消極的に捉える職員が多いと思う）	22
その他	1
合計	113

その他の回答

簡易なものしか利用していないので職員が使うというより利用者が使うものが多い

#### 問5. 介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対する要望や意見等

- ・ヘルパー一人一人にタブレットか何かで、実績等をネットでやり取りすると便利かな？とは思いますが、経費、維持費、を考えると難しいと思う。また、年齢的にタブレットを使いこなせるか不安。
- ・導入により、記入に時間が軽減された。
- ・展示会開催や他施設の運用方法等情報を知りたい。
- ・実際に使用体験をしてみたい
- ・費用の補助があれば検討できると思うが、離島のため思うように導入まで至らない
- ・ペッパーくんは利用者様に人気があった。
- ・導入費用の軽減措置、講習会開催など
- ・介護ロボット等の助成金が見える機器をもっと増やして欲しい
- ・介護職員の身体的負担を考えると導入して頂きたいですが、資金面で無理だと思います。姫路市には、助成金など導入しやすいようにして頂きたいと思います。

令和3年10月吉日

姫路市内介護保険事業所  
ご担当者 各位

(姫路市介護情報提供体制整備事業)

受託: 特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター  
理事長 田中 洋三

事業所様向け

介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、介護人材確保は喫緊の課題であり、姫路市でも様々な取組を実施しているところです。

今回、介護業務の負担軽減について有効策のひとつである介護ロボットや ICT (情報通信技術) の導入状況について、姫路市から依頼を受け、本調査を実施することになりました。

調査方法は、事業所に対するアンケート調査および介護従事者等に対するアンケート調査で構成しています。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。

1 送付物

(1) 事業所様向け

介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い(本文書)

※メールに添付してあるURLから回答いただくか

タブレット端末等で右のQRコードからご回答ください。



(2) 介護従事者様向け

介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い

※恐れ入りますが、メールに添付してある文書をご印刷の上、貴事業所でお勤めされている正職員の中から3名・非常勤職員の中から3名でいずれも介護現場でお仕事をされている介護職員や看護職員、生活相談員等介護業務に携わる方をご選定いただき、文書の配布をお願いいたします。

2 依頼事項

令和3年10月31日(日曜日)までに、アンケートフォームからご回答をお願いいたします。

※FAXの場合につきましては、恐れ入りますがアンケートフォームをご印刷いただきFAXにてご回答をお願いいたします。

3 その他

ご不明な点は、下記窓口まで、お問合せください。

**\*本調査に関する窓口\***

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター (担当: 西本・河原)

〒670-0955 姫路市安田3丁目1番地 姫路市総合福祉会館3F

TEL: 079-287-3000 FAX: 079-287-3200 メール: [harima-jinzai@h-294.com](mailto:harima-jinzai@h-294.com)

※この事業は、はりま総合福祉評価センターが姫路市の委託を受けて実施しています。

姫路市内介護保険事業所  
介護従事者等 各位

(姫路市介護情報提供体制整備事業)

受託: 特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター  
理事長 田中 洋三

介護従事者向け  
介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、介護人材確保は喫緊の課題であり、姫路市でも様々な取組を実施しているところです。

今回、介護業務の負担軽減について有効策のひとつである介護ロボットや ICT (情報通信技術) の導入状況について、姫路市から依頼を受け、本調査を実施することになりました。

調査方法は、事業所に対するアンケート調査および介護従事者に対するアンケート調査で構成しており、皆様には介護従事者に対するアンケート調査をお願いいたします。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。

1 送付物

(1) 介護従事者向け

介護ロボット・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い(本文書)  
※タブレット端末等で右のQRコードからご回答ください。



※ここでいう「介護従事者」とは、介護現場でお仕事をされている介護職員や看護職員、生活相談員等介護業務に携わる方を指しています。

2 依頼事項

令和3年10月31日(日曜日)までに、アンケートフォームからご回答をお願いいたします。

※FAXの場合につきましては、恐れ入りますがアンケートフォームをご印刷いただきFAXにてご回答をお願いいたします。

3 その他

ご不明な点は、下記窓口まで、お問合せください。

**\*本調査に関する窓口\***

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター (担当: 西本・河原)

〒670-0955 姫路市安田3丁目1番地 姫路市総合福祉会館3F

TEL: 079-287-3000 FAX: 079-287-3200 メール: [harima-jinzai@h-294.com](mailto:harima-jinzai@h-294.com)

※この事業は、はりま総合福祉評価センターが姫路市の委託を受けて実施しています。

## (事業所様向け) 介護ロボット等・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力のお願い

本調査は、介護業務の負担軽減について有効策のひとつである介護ロボット等やICT（情報通信技術）の導入状況について、姫路市内の介護事業所における状況を調査し、効果や課題を明確にすることにより、本市における、介護業務の負担軽減や人材確保・定着に向けた支援をより具体的に検討していくことを目的として実施いたします。

### ■入力上の注意事項（おねがい）

- 1 令和3年3月31日（又は4月1日）現在の状況について入力してください。
- 2 調査へのご回答は事業所で主たる実務を行う担当者（管理者または施設長、事務長など）が入力してください。
- 3 法人での回答ではなく、事業所の状況についてご回答ください。  
※短期入所や短期入所療養介護など施設サービスと一体的に運営されている場合については、施設サービスをご選択いただき、ご回答ください。
- 4 調査への協力は事業所（担当者）の自由意思です。
- 5 調査の設問は11問あり、20分程度かかります。
- ※一時保存はできませんので、回答は一通り1回のみ行ってください。
- 6 回答が必須の項目の入力が完了しないと送信できませんので、ご注意ください。
- 7 調査票の内容は、統計資料として用いますので、回答された法人名が公表されることはありません。

回答期限：令和3年11月15日（月曜日）までに、アンケートフォームより送信して（ご提出）ください。

### \*本調査に関する窓口\*

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター（担当：西本・河原）  
〒679-0955 姫路市安田3丁目1番地 姫路市総合福祉会館3F  
TEL：079-287-3000 FAX：079-287-3200 メール：[harima-jinzai@h-294.com](mailto:harima-jinzai@h-294.com)

※この調査は、はりま総合福祉評価センターが姫路市の委託を受けて実施しています。

### \*必須

1. 基本情報①施設名・事業所名（記入者氏名）を入力してください。\*

---

2. 基本情報②電話番号を入力してください。\*

---

3. 基本情報③メールアドレスを入力してください。\*

---

---

---

---

---

4. 基本情報④サービス種別（予防含む）を選択して下さい。\*

※短期入所や短期入所療養介護など施設サービスと一体的に運営されている場合については、施設サービスをご選択いただき、ご回答ください。

1つだけマークしてください。

- 居宅介護支援
- 訪問介護
- 訪問看護
- 訪問リハビリテーション
- 訪問入浴
- 通所介護
- 通所リハビリテーション
- 短期入所生活介護
- 短期入所療養介護
- 特定施設入居者生活介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 地域密着型通所介護
- 認知症対応型通所介護
- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
- 介護老人福祉施設
- 介護老人保健施設
- 介護療養型医療施設
- 介護医療院
- その他: \_\_\_\_\_

5. 基本情報⑤従業員数をご選択ください。\*

1つだけマークしてください。

- 1人以上～5人未満
- 5人以上～10人未満
- 10人以上～20人未満
- 20人以上～50人未満
- 50人以上～100人未満
- 100人以上

6. 基本情報⑥勤務している従業員の職種すべてを選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 介護職員
- 生活相談員
- 介護支援専門員
- 看護師（准看護師含む）
- 理学療法士
- 作業療法士
- 柔道整復師
- 言語聴覚士
- 管理栄養士（栄養士含む）
- その他:  \_\_\_\_\_



7. 基本情報⑦従業員の平均年齢を選択してください。\*

1つだけマークしてください。

20代

30代

40代

50代

60代

その他: \_\_\_\_\_

8. 基本情報⑧平均介護度（小数点第1位まで）を入力してください。\*

記入例→要支援1.8 要介護4.1 計算式例⇒【（要支援1×10名+要支援2×12名）÷22名=要支援1.5】 【（要介護1×8名+要介護2×10名+要介護3×15名+要介護4×20名+要介護5×18名）÷71名=要介護3.4】

\_\_\_\_\_

9. 問1. 導入している介護ロボット等・ICTの種類をすべて選択してください。\*

イラスト厚生労働省 URL: [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2\\_3.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2_3.pdf)

ロボット定義 (厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/000210895.pdf>

**介護ロボットの開発支援について**

<p><b>民間企業・研究機関等 &lt;経産省中心&gt;</b></p> <p>○日本の高度な水準の工学技術を活用し、高齢者や介護現場の具体的なニーズを踏まえた機器の開発支援</p>	<p><b>介護現場 &lt;厚労省中心&gt;</b></p> <p>○開発の早い段階から、現場のニーズの伝達や試作機器について介護現場での実証(モニター調査・評価)</p>			
<p>モニター調査の 実施等</p> <p>← 材料機器の 計測等</p>				
<p>開発重点分野</p> <p>○経済産業省と厚生労働省において、重点的に開発支援する分野を特定(平成25年度から開発支援) ○平成29年10月に重点分野を改訂し、赤字箇所を追加</p>				
<p><b>移乗支援</b></p> <p>○装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介護者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> <p>○非装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介護者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p>	<p><b>移動支援</b></p> <p>○屋外</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○屋内</p> <p>・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレでの姿勢維持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○装着</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p>	<p><b>排泄支援</b></p> <p>○排泄物処理</p> <p>・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調整可能なトイレ</p> <p>○トイレ誘導</p> <p>・ロボット技術を用いて歩道を予測し、動線などにロボット技術を用いた機器のフラットフォーム</p> <p>○動作支援</p> <p>・ロボット技術を用いてトイレ内の下衣の着脱等の特定の動作を支援する機器</p>	<p><b>見守り・コミュニケーション</b></p> <p>○施設</p> <p>・介護施設において使用する、センサーや外部設置機器を備えたロボット技術を用いた機器のフラットフォーム</p> <p>○在宅</p> <p>・在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部設置機器を備えたロボット技術を用いた機器のフラットフォーム</p> <p>○生活支援</p> <p>・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</p>	<p><b>入浴支援</b></p> <p>・ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の動作を支援する機器</p> <p><b>介護業務支援</b></p> <p>・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う作業を効率化・省力化し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</p>

当てはまるものをすべて選択してください。



導入していない

移乗支援(装着)



移乗支援(非装着)



移動支援(屋外)



移動支援(屋内)



移動支援(装着)



排泄支援(排泄物処理)



排泄支援(トイレ誘導)





排泄支援 (排泄動作)



見守り・コミュニケーション支援 (施設)



見守り・コミュニケーション支援 (在宅)



見守り・コミュニケーション支援 (生活支援)



入浴支援



介護業務支援 (記録支援システムなど)

その他:  \_\_\_\_\_

10. 問2. 介護ロボット等・ICTを使っている場合の業務内容ではまるものをすべて選択してください。\*  
イラスト厚生労働省 URL: [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2\\_3.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2_3.pdf)



当てはまるものをすべて選択してください。

- 導入していない
  - 見守り(夜間のみ)
  - 見守り(常時)
  - 移乗(ベッド、車椅子、トイレ等への乗り移り)
  - 排泄支援
  - 入浴支援
  - 寝返り・体位交換
  - シーツ交換
  - 屋内移動
  - 屋外移動
  - レクリエーション
  - 介護記録
  - ケアプラン
  - ミーティング・会議等
  - レセプト業務(請求業務)
- その他:  \_\_\_\_\_

11. 問3. 導入している介護ロボット等・ICTにかかった初期費用の概算を以下より選択してください。\*  
1つだけマークしてください。

- 導入していない
- 30万円未満
- 30万円以上~50万円未満
- 50万円以上~100万円未満
- 100万円以上~300万円未満
- 300万円以上~500万円未満
- 500万円以上~1000万円未満
- 1000万円以上

12. 問4. 介護ロボット等・ICTの導入前と比較して良かったと思われる点をすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 導入していない
- 利用者のQOL向上につながった
- 利用者とのコミュニケーションの機会が増えた
- 職員の腰痛予防につながった
- 職員の精神的負担が軽減された
- 職員の体力的負担が軽減された
- 業務の効率性が上がり残業が軽減した
- 利用者や家族からの理解が得やすくなった
- 情報共有がしやすくなった
- アクシデント・インシデントが軽減した
- 職員が最新機器に興味をもつようになった

その他:  \_\_\_\_\_

13. 問5. 介護ロボット等・ICTの導入前と比較して悪くなったと思われる点（課題）をすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 導入していない
- ほとんど使用していない
- 導入コストの高さ
- 使い勝手が悪い
- 操作方法の習得に時間がかかる
- 職員の理解が不足している
- 介護職員複数で作業するより時間がかかる
- 導入後の成果や効果がわかりにくい
- 保守・メンテナンス体制
- 介護ロボットによる事故（操作ミスによる事故）
- OJTの仕組みづくり（研修の実施等）

その他:  \_\_\_\_\_

14. 問6. 介護ロボット等・ICTの導入によって感じる職員の反応はどうか？以下より選択してください。\*

1つだけマークしてください。

- 導入していない
- 積極的に捉えている（積極的に捉える職員が多いと思う）
- 消極的に捉えている（消極的に捉える職員が多いと思う）
- その他: \_\_\_\_\_

15. 問7. 在宅介護事業所における業務効率化支援事業（兵庫県実施）を活用したことがありますか？以下より選択してください。\*

兵庫県 実施事業（令和3年度 在宅介護事業所における業務効率化支援事業）→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/boshuuyoukoushuusei.pdf> 令和3年度 兵庫県 介護業務における労働環境改善支援事業 補助対象機器一覧（兵庫県）→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/r3kaiqorobottoichiran.pdf> 関連資料（ICT導入支援事業実施要綱（厚生労働省実施要綱））→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/r3kunijoukou.pdf>

**在宅介護事業所における業務効率化支援事業 募集要綱**

**1 目的**

訪問系の介護サービス事業者に対して、ICT機器等の導入経費を補助することにより、介護サービスにおける日々の入力業務の大幅な削減やリアルタイムでの情報共有などの業務の効率化等を図り、もって訪問系事業所における生産性の向上・業務改善を促進する。

**2 対象事業所**

兵庫県又は県内市町から指定を受け、兵庫県内に所在する訪問系介護サービス事業所

- ・訪問看護、定期巡回・随時対応型訪問看護、
- ・訪問介護、訪問入浴介護、訪問リハビリテーション

※介護保険施設の方は「介護保険施設における業務効率化支援事業」から申請してください。

※「訪問看護事業所に対する利用者情報を記録するICT機器等の整備補助事業」を申請した者は対象外になるので留意すること。

**3 対象経費等**

記録業務、情報共有業務、請求業務までが一気通貫となるための以下の経費（ただし消費税は除くこと）

※補助対象期間内（要綱7-③に定める事業着手予定年月日から完了予定年月日）に納品された機器・経費が対象となります。

※補助対象期間外に納品された機器・経費は対象外になるので留意すること。

ソフト	<p><b>ソフトウェア・クラウドサービスの導入・改修・保守・サポート費・導入設定・セキュリティ対策にかかる経費</b></p> <p>記録業務、情報共有業務、請求業務までが一気通貫で行うことができる、介護ソフトや、クラウドサービスの導入、導入済のソフトの機能追加（L I F E 対応改修等）により、一气通貫が可能になる場合も対象。</p> <p>※居宅介護事業所との情報連携に際しては、標準仕様を活用すること。</p> <p>※日中のサポート体制が常設されており、企業が保証する商用の製品であること。</p> <p>※要綱7-③に定める着手・完了予定年月日までにかかった経費に限る。</p>
ハード	<p><b>タブレット端末、スマートフォン、インカム等のハードウェアの購入・設置にかかる経費。</b></p> <p>介護ソフト・クラウドサービスを使用し、記録業務や情報連携を行うための端末で、業務での使用に限る。（P C ・プリンタは対象外）</p>
その他	<p><b>導入研修に係る経費</b></p>

1

1つだけマークしてください。

- 活用したことがある（今後活用する予定がある）
- 活用したことがない（今後活用する予定がない）
- 対象となるサービス種別ではない
- 制度を知らなかった
- その他: \_\_\_\_\_

16. 問 8. 介護保険施設における業務効率化支援事業（兵庫県実施）を活用したことがありますか？以下より選択してください。\*

兵庫県 実施事業（令和 3 年度 介護保険施設における業務効率化支援事業）→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/kaigyoyoukou.pdf> 令和 3 年度 兵庫県介護業務における労働環境改善支援事業 補助対象機器一覧（兵庫県）→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/r3kaigorobottoichiran.pdf> 関連資料（ICT導入支援事業実施要綱（厚生労働省実施要綱））→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/r3kunjiyoukou.pdf>

介護保険施設における業務効率化支援事業 募集要綱

1 目的

介護保険施設において、I C T 機器等の導入経費を補助することにより、介護サービスにおける日々の入力業務の大幅な削減やリアルタイムでの情報共有などの業務の効率化等を図り、もって介護保険施設における生産性の向上・業務改善を促進する。

2 対象事業所

兵庫県又は県内市町から指定を受け、兵庫県内に所在する介護保険施設。  
特別養護老人ホーム（地域密着型を含む）、介護老人保健施設及び介護医療院（介護療養型医療施設は除く）

※在宅事業所の方は「在宅事業所における業務効率化支援事業」から申請してください。

3 対象経費等

記録業務、情報共有業務、請求業務までが一気通貫となるための以下の経費（ただし消費税は除くこと）

※補助対象期間内（要綱 7-③に定める事業着手予定年月日から完了予定年月日）に納品された機器・経費が対象となります。

※補助対象期間外に納品された機器・経費は対象外になるので留意すること。

ソフト	<p><b>ソフトウェア・クラウドサービスの導入・改修・保守・サポート費・導入設定・セキュリティ対策にかかる経費</b></p> <p>記録業務、情報共有業務、請求業務までが一気通貫で行うことができる、介護ソフトや、クラウドサービスの導入、導入済のソフトの機能追加（L I F E 対応改修等）により、一气通貫が可能になる場合も対象。</p> <p>※居宅介護事業所との情報連携に際しては、標準仕様を活用すること。</p> <p>※日中のサポート体制が常設されており、企業が保証する商用の製品であること。</p> <p>※要綱 7-③に定める着手・完了予定年月日までにかかった経費に限る。</p>
ハード	<p><b>タブレット端末、スマートフォン、インカム等のハードウェアの購入・設置にかかる経費。</b></p> <p>介護ソフト・クラウドサービスを使用し、記録業務や情報連携を行うための端末で、業務での使用に限る。（P C ・プリンタは対象外）</p>
その他	<p><b>導入研修に係る経費</b></p>

1

1つだけマークしてください。

活用したことがある（今後活用する予定がある）

活用したことがない（今後活用する予定がない）

対象となるサービス種別ではない

制度を知らなかった

その他: \_\_\_\_\_

17. 問9. 姫路市産業デジタル化支援補助金を活用したことがありますか？以下より選択してください。\*

姫路市独自事業（令和3年度姫路市産業デジタル化支援補助金募集要領）→<https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/cmsfiles/contents/0000014/14157/0713bosuyuyouryou.pdf>

令和3年度姫路市産業デジタル化支援補助金募集要領

(R3.7.13更新)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、新しい生活様式等への対応が求められる中、感染症にも経済危機にも強い、強靱かつ自律的な地域の社会経済を構築していくことが求められています。そこで、姫路市では、現下の厳しい状況を乗り越えるために、デジタル機器等を利用して業務のデジタル化を推進し、働き方改革、非接触型のサービスの導入、業務の効率化による生産性の向上等に取り組む中小企業者を応援します。

1 対象者

市内に本社（個人事業主にあつては主たる事業所、中小企業団体にあつては主たる事務所）を置く、中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者及び個人事業主並びに中小企業支援法第2条第1項第4号に規定する中小企業団体とします。（以下「市内中小企業等」という。）

<中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者及び個人事業主>

業 種	定 義
① 製造業、建設業、運輸業	資本金の額又は出資の総額が3億円以下又は常時使用する従業員の数が300人以下
② 卸売業	資本金の額又は出資の総額が1億円以下又は常時使用する従業員の数が100人以下
③ サービス業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下又は常時使用する従業員の数が100人以下
④ 小売業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下又は常時使用する従業員の数が50人以下
⑤ その他の業種（上記以外）	資本金の額又は出資の総額が3億円以下又は常時使用する従業員の数が300人以下

<中小企業支援法第2条第1項第4号に規定する中小企業団体>

種 類		
⑥ 事業協同組合	⑨ 協同組合連合会	⑫ 商工組合
⑦ 事業協同小組合	⑩ 企業組合	⑬ 商工組合連合会
⑧ 信用協同組合	⑪ 協業組合	

1

1つだけマークしてください。

- 活用したことがある（今後活用する予定がある）
- 活用したことがない（今後活用する予定がない）
- 対象となるサービス種別ではない
- 制度を知らなかった
- その他: \_\_\_\_\_

18. 問10. 介護ロボット等・ICTに関する情報を入手している方法を以下よりすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- インターネット
- 展示会
- 介護用品販売業者からの情報
- 所属する団体・協会等からの情報
- 他介護施設や事業所からの情報
- その他:  \_\_\_\_\_

19. 問11. 介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対するご要望やご意見等がございましたらご自由にお書きください。

---



---



---



---



---



## (介護従事者向け) 介護ロボット等・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査協力をお願い

本調査は、介護業務の負担軽減について有効策のひとつである介護ロボット等やICT（情報通信技術）の導入状況について、姫路市内の介護事業所における状況を調査し、効果や課題を明確にすることにより、本市における、介護業務の負担軽減や人材確保・定着に向けた支援をより具体的に検討していくことを目的として実施いたします。

### ■入力上の注意事項（おねがい）

- 1 令和3年3月31日（又は4月1日）現在の状況について入力してください。
- 2 調査票は介護に従事される介護職や看護職、介護支援専門員、生活相談員等、介護の現場で従事される方が入力してください。
- 3 調査への協力は個人の自由意思です。
- 4 調査の設問は基本情報を除いて5問あり、10分程度かかります。  
※一時保存はできませんので、回答は一通り1回のみ行ってください。
- 5 回答が必須の項目の入力が完了しないと送信できませんので、ご注意ください。
- 6 調査票の内容は、統計資料として用いますので、個人が特定されることはありません。

回答期限：令和3年11月15日（月曜日）までに、アンケートフォームより送信して（ご提出）ください。

### \* 本調査に関する窓口 \*

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター（担当：西本・河原）  
〒679-0955 姫路市安田3丁目1番地 姫路市総合福祉会館3F  
TEL：079-287-3000 FAX：079-287-3200 メール：[harima-jinzai@h-294.com](mailto:harima-jinzai@h-294.com)

※この調査は、はりま総合福祉評価センターが姫路市の委託を受けて実施しています。

### \*必須

1. 基本情報①あなたの年齢を選択してください。\*

1つだけマークしてください。

- 20代  
 30代  
 40代  
 50代  
 60代  
 その他: \_\_\_\_\_

2. 基本情報②あなたの性別を選択してください。\*

1つだけマークしてください。

- 男性  
 女性  
 回答しない  
 その他: \_\_\_\_\_

3. 基本情報③あなたが従事しているサービス種別を選択して下さい。\*

1つだけマークしてください。

- 介護系の通所サービス（デイサービスなど）
- 医療系の通所サービス（デイケアなど）
- 介護系の訪問サービス（ホームヘルプサービス・訪問入浴など）
- 医療系の訪問サービス（訪問看護・訪問リハビリテーションなど）
- 介護系の入所サービス（特別養護老人ホームなど）
- 医療系の入所サービス（介護老人保健施設・介護医療院など）
- 介護系の複合サービス（小規模多機能型居宅介護）
- 医療系の複合サービス（看護小規模多機能型居宅介護）
- 介護系の居住系サービス（認知症グループホーム・介護付き有料老人ホームなど）
- 居宅介護支援事業所
- その他: \_\_\_\_\_

4. 基本情報④あなたが従事している職種を選択してください。\*

1つだけマークしてください。

- 介護職員
- 看護職員
- 介護支援専門員（ケアマネジャー）
- 生活相談員
- リハビリテーション専門職員
- 管理栄養士（栄養士含む）
- 管理者
- その他: \_\_\_\_\_

5. 問1. 現在勤められている事業所や過去に勤めていた事業所で使ったことがある介護ロボット等・ICTの種類をすべて選択してください。\*

イラスト厚生労働省 URL:[https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2\\_3.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2_3.pdf) ロボットの定義<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/000210895.pdf>



当てはまるものをすべて選択してください。



導入していない

移乗支援（装着）



移乗支援（非装着）



移動支援（屋外）



移動支援（屋内）



移動支援（装着）



排泄支援（排泄物処理）



排泄支援（トイレ誘導）



排泄支援（動作支援）



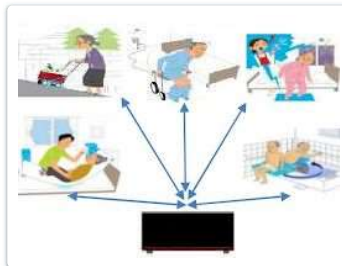
見守り・コミュニケーション（施設）



見守り・コミュニケーション（在宅）



見守り・コミュニケーション（生活支援）



入浴支援

介護業務支援（記録支援システムなど）

その他:  \_\_\_\_\_

6. 問2. 介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、良かったと思われる点や効果があったと思われる点をすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 導入していない
- 利用者のQOL向上につながった
- 利用者とのコミュニケーションの機会が増えた
- 腰痛予防につながった
- 精神的な負担軽減につながった
- 体力的な負担軽減につながった
- 残業が軽減につながった
- 利用者や家族からの理解が得やすくなった
- 情報共有がしやすくなった
- アクシデント・インシデントが軽減した

その他:  \_\_\_\_\_

7. 問3. 介護ロボット等・ICTが導入される前と比較して、悪くなったと思われる点や課題となっていると思われる点をすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 導入していない
- ほとんど使用していない
- 使い勝手が悪い
- 操作方法の習得に時間がかかる
- 介護職員複数で作業するより時間がかかる
- 利用者のQOL向上につながっているかが分かりにくい
- 保守・メンテナンスがわからない
- 介護ロボットによる事故（操作ミスによる事故）

その他:  \_\_\_\_\_

8. 問4. 介護ロボット等・ICTの導入によって周りの職員の反応はどうか？以下より選択してください。\*

1つだけマークしてください。

- 導入していない
- 積極的に捉えている（積極的に捉える職員が多いと思う）
- 消極的に捉えている（消極的に捉える職員が多いと思う）
- その他: \_\_\_\_\_

9. 問5. 介護ロボット等・ICTの導入について、姫路市に対するご要望やご意見等がございましたらご自由にお書きください。

---

---

---

---

---

質問は以上です。送信ボタンを押してご提出ください。  
ご協力いただきありがとうございました。

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

<介護ロボット等・ICT導入による介護業務の負担軽減に関する調査 報告者>

田中 洋三（はりま総合福祉評価センター理事長）

河原 正明（はりま総合福祉評価センター事務局長）

西本 直樹（はりま総合福祉評価センター事業担当次長）

オブザーバー

姫路市 介護保険課

- この調査研究は、姫路市「介護人材確保育成支援事業」をはりま総合福祉評価センターが委託を受け実施したものです。

令和4（2022）年3月発行

発行 特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター

〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館3F

TEL : 079-287-3000 FAX : 079-287-3200

MAIL : [harima-jinzai@h-294.com](mailto:harima-jinzai@h-294.com)

